日本造園修景協会県支部総会

吉村支部長再選
自然環境創出等を推進

日本造園修景協会県支部（吉村一郎支部長）は7日、鹿児島市のベイサイドガーデンで16年度通常総会を開き、造園修景の研修会等の開催などを盛り込んだ事業計画等を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、吉村支部長（東亜建設技術㈱鹿児島営業所）を再選した。

総会では、吉村支部長が「造園修景思想の啓発と技術の向上に努め、時代や地域住民のニーズに応えるとともに、自然環境の創出と住民環境の整備改善を推進していこう」と挨拶。

続いて、造園修景功労者表彰の後、吉村支部長を議長に選出し議案審議に入り、15年度事業・収支決算報告、16年度事業計画・収支予算案などを審議した結果、執行部原案通り可決承認した。また、役員改選では吉村支部長の続投を決めた。

新年度事業計画は、①組織の強化②造園修景の研修会等の開催③公園緑地行政等に対する協力並びに関係団体との連携④造園修景士の資格認定登録⑤広報活動－などを盛り込んでいる。

新役員、表彰者、新規会員は次の通り。

【新役員】支部長＝吉村一郎▽副支部長＝丸山重之（㈱丸山緑地建設）▽幹事＝有村勝則（有村総合建設㈱）石走豊稔（石走造園㈱）井上徳光（井上総合緑化建設㈱）岩森豊（鹿地域振興公社）内田武顕（同）川﨑一三（㈱川﨑緑化センター）小迫賢志（㈱錦城測量設計）五反淳二（㈱西部システム）瀬戸正徳（南九州園芸・樹木医研究所）中島彰（有中島芝園）間世田武裕（㈱桂造園）松隈実（㈱大紀造園設計事務所）向井勝美（有勝緑園）▽監事＝松村輝久（㈱長島植物園）五反孝一（㈱五反共楽園）▽最高顧問＝横瀬太八（㈱大紀造園設計事務所）

【表彰者】造園修景功労者＝内田武顕　五反孝一　中島辰雄（有中島芝園）

【新規会員】前田敏春（有前田緑化園）▽賛助会員＝西山哲郎（㈱中村測量設計）

造園修景思想の啓発と技術の向上に努めよう――と挨拶する吉村支部長＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

研修会も実施
景観緑三法等学ぶ

なお総会終了後、県造園建設業協会との共催で「16年度研修会」も開かれ、業界関係者ら約120人が出席して、景観緑三法の概要や、緑の創出による街づくりなどについて学んだ。

研修会では、九州地方整備局建政部の竹田和真建設専門官が「景観緑三法とみどりの創造」、県林業試験場保護部の佐藤嘉一主任研究員が「緑化樹木の害虫被害防除」と題して講演。この中で、竹田和真建設専門官は「美しい街づくりをすることは、地域の活性化につながる」と述べた。

全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会の専務理事に就任した

かお…人

生駒　丈夫 氏

6月の総会で就任。1年間の専務理事空席が解消、執行部の体制が整った。しかし、業界の現状は「どちらの方向に進めばいいのか分からない」上に、連合会の財政は厳しさを増し「やるべきことも できなくなってしまう」事態が下降する中で だからこそ、「どういう行動をとれば、組合員の皆さんのプラスになるのかを考えていかなければならない。皆さんの納得が得られるように、議論を深めていく必要がある」と考える。

第一にコンクリート舗装の普及などによる需要拡大を挙げる。

また、協同組合の運営の効率性追求も一つの答え。「アウトサイダーが出てくるのは当たり前」であり、それに対抗するために「いかに強くなるか」だと

コンクリート舗装の需要拡大を

査制度をはじめとした技術面での信頼性、効率的な運営という強みを発揮すべきであると。

一方、「社会の常識」の大切さも訴える。「業界の常識が社会の常識から離れると、社会の非常識になる。絶えず社会の常識と比べてどうなのかを判断していかなくてはならない。そうしないと、思わぬマイナスを被る危険性がある」。その意味で、連合会の「綱領」を「企業にも業界にとっても大

健康のためのゴルフが今一番の趣味で、毎週奥さんとコースに。リタイアしたら「司馬遼太郎の著作を全部読もうと思っている」。

略歴

山口県山口市出身。昭和18年生まれの61歳。九州大学法学部卒後、40年小野田セメント入社。平成9年札幌支店長、10年小野田エーエルシー常勤監査役、11年山口小野田レミコン社長、14年東海運常勤監査役などを歴任。

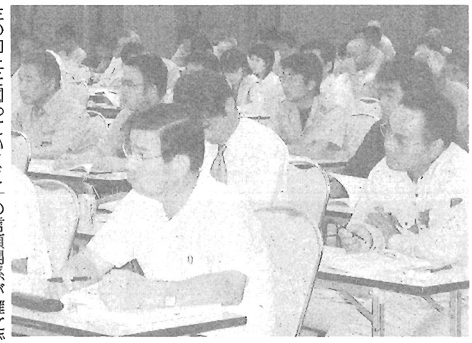
収集・運搬の知識習得

産廃処理業許可申請講習会

日本産業廃棄物処理振興センター（古市圭治理事長）は6、7日の両日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（収集・運搬課程）を開き、約150人の受講者は同業の収集・運搬許可を受けるにあたって必要な専門的知識や技能などを深く習得した。

行政概論、環境衛生に続いて行われた2日目の講習では、同センターの宮田耀輔氏を講師に収集・運搬の意義や方式、留意事項などについて解説。「人口の増加と生活水準の向上、さらに生活様式の変化から近年、廃棄物は増加、多様化の傾向にある。適正な処理に努め、生活環境の保全や公衆衛生の向上を図っていくことが必要」と意義を説明。また、収集・運搬方式の選定については、廃棄物の種類や量、性状など十分把握することが大切とし、「迅速な収集・運搬はもとより、地域住民との信頼関係が確立できるような運営をしていくことが重要」などと述べた。

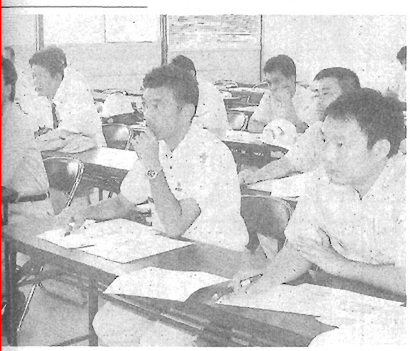
なお、講義終了後は修了考査が行われ、合格者については後日、修了証が交付される。


大勢の受講者が詰め掛けた講習会＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで

県建築協会青年部会 現場見学会等

技術力や工法等学ぶ

県建築協会青年部会（林正英部会長）は7日、鹿児島市の鹿児島南警察署新築現場で現場見学会・技術研修会を開いた。当日は会員ら約30人が


工法やＭＣＲ工法について熱心に聴講する参加＝鹿児島市の鹿児島南警察署内の研修会会場で

は原点に返って、建設の根本である技術力や工法等を勉強し、技術力などの向上につなげ、地域住民に還元したい」と挨拶。

続いて、本体設計のゲンプラン設計㈱の坂口正文氏、本体工を施工する坂本建設・丸和建設・三和建設ＪＶの鎌田正二所長らの挨拶の後、同ＪＶの坂元秀美副所長が工事概要についてスライドを使って説明した。また、㈱ピーエス三菱の池田龍基氏が同署新築現場の2階から R階の一部の梁と外壁タイルに取り入れたＰＣ工法とＭＣＲ工法について説明した。参加者らは資料にチェックを入れたり、メモを取るなど熱心に聴講した。

このあと、建設現場に移動し、実際現場を見学しながら説明を受けた。

鹿児島南警察署新築の建物規模はＲＣ造5階建延べ5818・09平方㍍、完成は17年2月28日を予定。2～R階梁の一部には、鉄筋コンクリートの梁にあらかじめＰＣケーブルを長期応力分布形状度が得られたら梁端部にセットしたジャッキでＰＣケーブルを緊張し、その力を梁に伝え固定するＰＣ工法を採用。また、外壁タイルには、コンクリート面に多数のあり状の凹凸を設け、モルタル下地または張り付けモルタルとの接合を強固にするＭＣＲ工法を使用している。

【訂　正】1日号4面、関西ヒカコン販売のコンクリート表面気泡抜き取り具の記事中、電話番号と商品価格が間違っていました。正しくは、☎0883・63・3797、価格が2万3000円（税込み）でした。お詫

7月は海岸愛護月間

「美しく、安全で、いきいきした海岸を目指して」。国土交通省、都道府県、市町村は、7月の「海岸愛護月間」に合わせて全国各地で広報活動や、イベントなどを展開する。

月間は、国民の共有財産である海岸を貴重な生活空間として、良好な状態に保つとともに、安全、適正な利用のため、海岸愛護思想の普及と啓発を図ることが目的。昭和47年からスタート。

各地方整備局、都道府県、関係市町村などは月間中、海岸に関する広報活動や、海岸愛護団体の育成・顕彰、講演会・シンポジウムなどのイベントを積極的に実施する。